

暁木会会員 各位

平成 22 年 12 月 吉日  
暁 木 会

<http://www.gyoubokukai.jp/>

平素は、暁木会の活動にご支援とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

今回の暁木会ニュース第 18 号は、会員名簿の修正版に併せて発行させて頂くものです。井料先生、織田澤先生から「研究報告」についてご執筆頂き、また第一線での活躍ぶりについて会員諸氏から寄稿していただきました。さらに、現役の学生との交流を持てるよう、現役学生生活の一部や、インターンシップの報告をして頂いております。

なお、本編は白黒ですが、カラー版をホームページに掲載しております。写真等はそちらが見やすいので、右上の URL からご覧いただけますよう、お願いします。

## 暁木会ニュース、現役学生にも配布

例年、年 3 回の暁木会と市民工学科との意見交換会を開催しており、暁木会の役員と大学の先生方とで、双方からの提案について活発な意見が交わされております。今年度は、教室会議の実施日にあわせて、6/10 と 10/14 の 2 回実施いたしました。

現在、会費会員の増加が暁木会運営の課題となっておりますが、大学在学時から、暁木会の存在を知ってもらうことが、一つの解決・改善策と考えております。その一環として、研究室に配属された学生に、暁木会ニュースをお配りさせて頂くと共に、配属前の学生にも暁木会の存在を知って頂くよう、市民工学科事務室前の廊下に暁木会に関する掲示板の設置のお願いをし、了解をいただきました。現在、写真のように、暁木会ニュースを掲示させて頂いています。先生方からも、就職活動を見越した OB、OG の活躍を伝える場を設けたいというご意見をいただいております。「現役最前線」や「私の学生時代」などの連載を通じて、暁木会会員からの情報発信をしていければと考えております。皆様の投稿をお待ちしておりますので、よろしく申し上げます。

なお、意見交換会の議事録は HP (URL は巻末に記載) に記載しておりますので、ご覧ください。



## 研究報告（リスク下における意思決定問題）

准教授 織田澤利守

本年9月に東北大学より異動し、市民工学専攻に着任いたしました。私は、国土計画、都市・地域計画、および防災計画に関わる諸問題を数理工学、経済学、ゲーム理論を用いて分析し、政策提案を行うことを目的に研究をしています。私はこれまで主に不確実性下の意思決定問題について研究を行ってきました。私たちの日常生活や政府、企業の活動は、常に意思決定の連続であるといえます。多くの場合、意思決定には将来に対する不確実性が付きものです。また、意思決定者が必要な情報を全て持ち合わせているとは限りません。さらには、周りの人の決定によって、自らが下した決定の価値や結果が変わるといった相互作用が存在します。こうした状況を数理モデルを用いて表現し、問題解決に向けて分析を行っています。これまで様々なテーマに取り組んできましたが、紙面の都合上、以下では、ある都市問題を対象とした研究について紹介します。

“ブラウンフィールド”という言葉をご存知でしょうか？ブラウンフィールドとは「土壌汚染の存在、またはその懸念から、本来その土地が有する潜在的な価値よりも著しく低い用途、または未利用となった土地」、すなわち土壌汚染（あるいはその可能性）によって塩漬けとなった土地のことを言います。ブラウンフィールドは、都心の空洞化や郊外開発によるスプロール現象、それらに伴うスラム化、周辺不動産価値への影響、税収の減少、地域のイメージダウン、自然破壊など様々な悪影響を社会にもたらします。歴史的に早い段階で産業化を果たした欧米諸国では、都心の工場跡地のブラウンフィールド化が既に深刻な都市問題となっています。幸い、日本では、未だ社会問題として顕在化していません。しかし、潜在的なブラウンフィールドの規模が面積にして2.8万ha（土壌汚染地の約1/4）、資産価値にして10.8兆円にのぼるとの研究報告がなされており、今後地方都市を中心に問題化する可能性が少なくありません。我が国においては、2003年に土壌汚染対策法がようやく施行されるなど対策はまだ始まったばかりで、都市の持続的な開発を可能にしていくためにもブラウンフィールド問題は避けて通れない課題といえます。ブラウンフィールド問題には、環境リスクの他に、市場における土地取引プロセスに介在する様々な経済的リスクも影響を及ぼしています。多様なリスクが連鎖的、相乗的に作用することによって、問題が複雑化し解決が困難となっています。こうした観点から市場参加者のリスク下における意思決定をモデル化し、ブラウンフィールド問題の発生を抑制するための方策を探る研究を現在行っています。

私たちが対象とする都市問題や社会問題は、様々な要因が絡み合う複雑な問題です。こうした場合、現象縦断的アプローチに加え、現象横断的アプローチが重要であると考えます。現象縦断的アプローチとは、現象を深く掘り下げることによって問題の解決を図る方法です。一方、現象横断的アプローチとは、一見無関係に見える問題の中に共通した構造を読み解き、他の問題に有効な解決策を組合せたり、応用することによって新たな問題の解決策を創造する方法です。この両者は、ちょうど織物の縦糸と横糸の関係といえます。丈夫でしなやかな織物を編むためには縦糸と横糸のバランスが大切です。着任して間もないため、学生の研究指導をまだ担当していませんが、この縦糸と横糸のバランスを備え、創造性の豊かでしなやかな人材を育成していきたいと考えています。何卒よろしく願いいたします。



写真：国外のブラウンフィールド事例

## 研究報告（歩行者行動のモデリング）

准教授 井料隆雅先生

「歩行」は数ある交通手段の中でももっとも基本的なものであり、もっとも環境に優しいものでもあります。より快適な歩行者空間を創造することはよりよい都市空間の実現に必要な不可欠といえるでしょう。そのためには歩行者がどのようなメカニズムで行動しているのかをよく知ることが重要です。

「歩行」は日々の生活のなかで何気なく行われることですが、その行動を決定するメカニズムは実は大変複雑です。たとえば初めて神戸の北野地区を訪問する観光客の行動を考えてみましょう。その観光客は、おそらくガイドブックを持っているでしょうし、そうでなくても市内各所で配布されているガイドマップを到着早々に手に入れることでしょう。それらには、例えばどのような異人館がどこにあるかが掲載されており、観光客は目当ての目的地に向けてまずは歩き始めることでしょう。さて、この観光客、ガイドブックから目当ての目的地をピックアップし、そして最短経路でそれらを巡回し、そのあとまっすぐホテルに帰るだけで満足するのでしょうか…？ 実際に北野を訪問する観光客の行動がそんなに単純でないことは明白です。

歩行者の行動を複雑にする一つの要因に「探索行動」があります。歩行者は街を歩きながら様々な情報を収集することが可能です。たとえば上記の北野地区には多くの飲食店や土産物屋があります。それらがどのようなものをいくらで売っているのか、たくさんの客が入っている飲食店なのか、どんな雰囲気の店なのか、などは歩きまわることによって初めて得られる情報です。歩行者は単に目的地に向かうだけでなく、これらの情報を収集し、それに応じて新たな目的地を追加したり、すでに決めた目的地を変更したりします。このような探索行動は車や鉄道など他の交通手段ではあまり一般的ではなく、歩行者に特有の行動といえます。

この探索行動のメカニズムを解明するために、井料および本専攻修士生を含む共同研究者は理論的アプローチと実験的アプローチの双方を用いた研究を行いました。理論的アプローチでは、探索行動を歩行空間上での最適停止問題ととらえてモデル化し、その特性を数理的に検証しました。その結果、未知の街で1箇所の目的地（たとえば飲食店など）を訪問しようとする歩行者は、①まずは歩行空間を歩きまわって店を探す。②あらかじめ決めた一定の基準を上回る店を発見したら、その時点で探索を終了しその店に入る、という行動を行うことがもっとも合理的であることを示しました。また、この法則がどの程度実際の行動を説明するかを確かめるため、コンピュータ上に仮想の街を簡単なCGで構築し（図1）、その街の中で実際に探索行動を行ってもらおうという室内実験を行いました。この実験の結果は上述の理論的予想をおおむねサポートするものですが、「実際の人は『合理的な範囲』を若干超過して探索をつづける」傾向があることもわかりました。探索行動の空間的特性については実際の歩行空間でも実験を行っており、歩行者は交差点からの視界を活用して効率的な探索を行っているという傾向をつかんでいます（図2）。

以上で紹介した研究成果は国際会議<sup>1)</sup>で発表を行いました。また、これ以外に、雑踏における歩行者行動に関する研究なども行なっています。

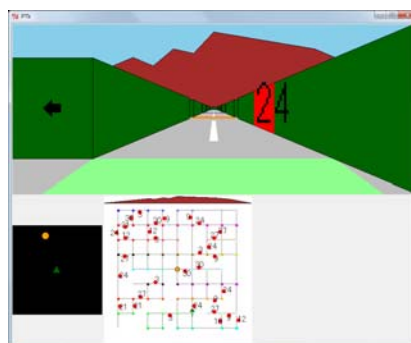


図1 PC上での探索行動実験

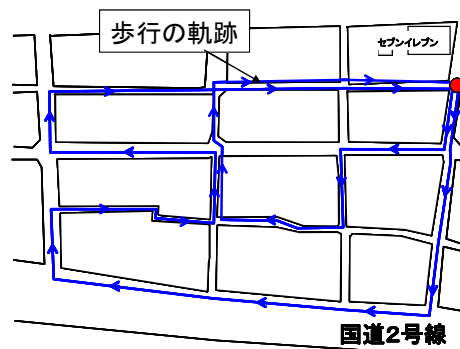


図2 実際の街での探索行動実験

1) Iryo, T., Asakura, Y., Onishi, R. and Samma, C., Modelling Dynamic Generation of a Choice Set in Pedestrian Networks, in Transportation and Traffic Theory 2009: Golden Jubilee, W. H. K. Lam, S. C. Wong and H. K. Lo (Eds.), 2009, Springer: New York: p. 517-539.

## 現役最前線

航空の安全

国土交通省 航空局 空港部 瀬口 均 C98



平成 12 年 3 月に神戸大学修士課程を修了後、関西国際空港を運営・管理する関西国際空港株式会社に入社し 10 年が経ちました。入社以来 1 期空港の沈下管理に始まり、2 期工事の予算管理や広報、現場管理、2 期空港施設の設計等に従事しました。この 10 年は会社関係者のみならず、施工 JV や設計コンサル、調査会社の担当者等多くの方々と一緒に仕事をさせて頂き、実務を通じ大変勉強になった日々でした。このように、関空建設プロジェクト一筋の社会人生活を過ごして参りましたが、本年 4 月より霞が関の国土交通省航空局に出向しております。航空局は、航空管制や空港、航空会社、航空機産業等、民間航空全体の規制当局であり、安全管理を行っている部局です。

航空の中で最も大きなキーワードのひとつは、『安全』に利用できること。航空における安全とは、航空輸送を行うひとつひとつのプロセスにおいて、幾重にもわたるフェイルセーフを行い、事故の発生を限りなくゼロに近づけることといえます。

本年 6 月に国交省航空局が主体となり、民間航空全体を対象とした ICAO の安全監査を受けました。ICAO は、国連の専門機関の一つである国際民間航空機関のことで、我が国は 1954 年に加盟しています。私は出向早々監査対応チームの一員を拝命することとなりました。ちなみに、ICAO の安全監査は非常に厳しいもので、アジアの某国では監査中の指摘により、当局トップが解任につながったほど影響が大きいものです。

広範囲にわたる監査内容のうち、私に対応した分野は、滑走路等の空港施設の安全対策です。監査にあたっては、滑走路・誘導路等の配置寸法から維持管理のルール、工事中の安全管理基準について、ICAO の国際標準、日本の航空法、設計基準の関連部分を再度確認・整理し、監査に対する回答を用意しました。監査時の提示資料もほぼ全て英訳して準備を行いました。監査の結果、一部で指摘はあったものの、日本の空港施設の安全対策はレベルが高いという評価を頂きました。

監査対応は、私にとって出向直後の短期集中型の業務でしたが、空港の設計・安全基準について熟慮し、それらのルーツを知ることが出来、非常に有意義な経験となりました。監査後は、維持管理効率・品質を高める研究の推進など、空港の安全につながる業務を行っています。本年 10 月に新滑走路が供用される羽田空港の国際化の推進、関空・伊丹経営統合案など次々と打ち出される政策を横目に、国交省で空港施設の安全について出来る限りのことを経験・吸収し、関空に持ち帰りたいと思います。



## スタートライン（新顔紹介）

「人との出会いとチャンスを掴む努力」

中央大学 理工学部 都市環境学科 金澤伸一

今年の3月に、神戸大学大学院博士課程後期課程を修了して、4月から中央大学理工学部都市環境学科の助教として働いています。在学中は、都市安全研究センターの、飯塚敦先生および河井克之先生のご指導のもと、地盤工学、不飽和土の力学、および数値解析等を学びました。

振り返れば、今の職に就くまで、私の人生にはたくさんの紆余曲折がありました。建築の学校を卒業後、土木系コンサルタントに就職したところから話は始まります。建築出身だった私は、土木の「ど」の字も知らず、当然ながら毎日が仕事＝勉強でした。辛くも、充実した日々を過ごしていましたが、必要資格の取得に実務経験が長くかかることを知りました。そこで、当時の上司に相談したところ、今一度大学に入って土木を勉強してきてはどうか？と提案していただき、私の一から土木を学びたいという気持ちと重なり大学に入り直しました。久々の大学での講義でしたが、大学で勉強している中で、より専門性を高めたいと感じるようになり大学院進学を志すようになりました。



しかし、研究室配属後、指導教員にその旨を伝えたところ、定年のため指導できないとの返事でした。その時に紹介されたのが飯塚先生でした。それから、私の大学院生活が始まりました。飯塚研究室の指導方針は、とにかく学生主体で進行し、先生は学生の意見に耳を傾けつつ修正していくといった姿勢でした。また、様々な勉強会や、他の大学との交流を通じて、自分の世界がどんどん広がっていきました。そういった機会もあり、ますます勉強への意欲が高まり、遂には博士後期課程への進学を決めました。

私が、研究室で学んだことは勉強だけではありません。何をするにしても、人との繋がりを大切にすること。失敗を恐れず、何事にも前向きに立ち向かっていくこと。こういった精神はどのような職に就こうとも大切だと思います。私の人生を変えたのは人との出会いです。また、チャンスを掴むためには、そのチャンスを掴む努力と実力も必要だと思います。そういったことも勉強させていただきました。

私も、4月から教えられる立場から教える立場になりましたが、神戸大学で学んだ精神を糧に、1年生研究者として、これから中央大学の学生たちと向き合っていこうと思います。

## インターンシップ報告

会員の皆様のご理解とご協力で、今年も3回生を対象にした市民工学科の夏季実習研修（インターンシップ）が無事終わりました。御礼の意味も込めて、ここではその一部を報告させていただきます。

### ジェイアール西日本コンサルタンツでの夏季インターンシップ

浅香 遼

2週間の期間で、ジェイアール西日本コンサルタンツさんにインターンシップでお世話になりました。ここを選んだ理由は、①コンサルタントとは何か、②鉄道会社のグループ内のコンサルの役割はどの様なものか、を知りたかったからです。

1週目は計画部門を扱う「まちづくり推進部」での実習でした。大阪駅北ヤード地区に来春、大阪駅北ビルが開業しますが、大規模店舗立地法に基づきその規模に応じた駐車場の設置が義務付けられています。大阪駅周辺はもともと車が混雑しているため、開業時に駅周辺が渋滞しないよう駐車場までスムーズに誘導し、またどこに適切な駐車場の空満表示看板を設置すべきかを考えグループでまとめ、1週間で案を発表する内容でした。どのくらいの量の交通量が流れてくるかといった検討はすでに終わっていて、警察との協議で交通誘導ルートも決まっていたため、まわりの景観に注目しながら看板設置案を考えるものでした。2週目は設計を扱う「土木設計部」での実習でした。ジェイアール西日本コンサルタンツでは今まで設計してきたさまざまな構造物の特徴を入力し、今後似たような設計を行う際に便利のようにデータベース化していますが、実際の設計図を見てデータベースで必要な情報を設計図より読み取って、専用のエクセルファイルに入力していく作業が主でした。また、現場にも赴き、特徴ある掘削工法や、列車付近の工事現場のためグループ内共通の安全確認の方法を学びました。

実習を通して、現場に行き現場の情報を得る大切さ、グループワークをどうこなしていくかを学ぶことが出来ました。また、設計図の読み方など学校では見れない、学べないものを実際見ることが出来ました。

今回お世話になったジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社ならびに2週間通してお世話をしてくださった長野さんはじめ各部所でお世話になった方々へ、些細なことやわからない用語、現場での質問に対してやさしくていただいて、わかりやすく実習を行うことが出来ました。社長にも業務時間中に声をかけていただいたり、優しく接していただいて、うれしい限りです。コンサルの行う業務を実習から、また社員の皆さんとのコミュニケーションから学ぶことが出来たので、この経験を生かし、今後の勉学に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

### 清水建設(株)での夏季インターンシップ

山野歩今

2週間の期間で、清水建設(株) 高速道路工事現場(阪神高速道路発注の正蓮寺川高速道路)にお世話になりました。実習先を選択した理由は、ゼネコンという機関がどんな仕事をしているのかを知りたいと思っていただけで、その中でも清水建設を選んだのは、清水建設

のテレビ CM が言う「こどもたちに誇れる仕事」とは具体的にどのようなものであるのか、ということを実際に見てみたかったからです。

実習先の現場は、阪神なんば線伝法駅から徒歩 10 分の場所で、1 回生の「市民工学概論」の授業でも見学に伺った高速道路の建設現場でした。1886m の距離があるので、工区が大きく 5 区間に分かれており、工区毎に工事の進行具合、行う仕事、担当者も異なっています。実習では、次にどこに構造物を作るのか、正確な場所を示すためのトランシット測量や GPS 測量、出来上がった構造物が本当に正確かを確認するためのレベル測量、使用したコンクリートのデータをコンピュータに入力、正確に工事が行われたことを示す「証明写真」の撮影を行いました。

「ゼネコンとは、発注された構造物をいかに早く、安く作るかを考える所」という印象を持っていましたが、実習を通して「ゼネコンとは、近隣住民と作業員の安全を第一に考えながら、且つ、発注者といつかその構造物を使用する人々を満足させればいいのかを考え続ける所」という印象に変わりました。私が体験したのは現場での業務のみでしたが、猛暑の工事現場は立っているだけで体力を消費し、本当に過酷でした。しかしその一方、仕事をしているどの人を見ても、とても楽しそうでした。やりがいのある仕事だと感じました。

最後に、実習を受け入れて下さり、また、大学では学べない様々なことを教えて下さった正蓮寺川高速道路工事の現場の皆様、ならびにこのような素晴らしい機会を与えて下さった人事部の土方様に心からお礼を申し上げます。またインターンシップを斡旋して下さいました中山先生と柳岡様にも感謝いたします。ありがとうございました。

## 加古川市役所での夏季インターンシップ

吉田直人

1 週間の期間で、自宅より徒歩 10 分のところにある加古川市役所建設部道路整備局道路建設課にお世話になりました。実習先を選択した理由は、最近の加古川市における道路建設の実情や、自治体がどのようにかかわっているかを知りたかったからです。

実習内容は、緊急対策踏切改良事業や交差点等改良事業、要望箇所の土地権利関係等調査、道路新設改良の計画・設計でした。実習の中で、道路建設課がいかに地域住民と結びついているかがわかりました。また、昔に造られ、交通量が増加した今では危険である所など、地域には、改善しなければいけない所がたくさんあることも学びました。加古川市は今、財政難だそうです、その限られた予算の中で住民の要望を満たす安全で便利な道路を造らなければならない難しさを実際に計画・設計させてもらい、体験することができました。

最後に、今回お世話になった加古川市建設部道路整備局道路建設課の皆さま、南北道路対策課の皆さまに感謝いたします。

## 現役学生生活紹介(研究室対抗フットサル大会)

準教授 鎌田泰子先生 C97

ワールドカップ南アフリカ大会で日本代表のベスト 16 での敗退が決まった週末、平成 22 年 7 月 4 日（日）に HAT 神戸にて市民工学科・専攻の研究室対抗フットサル大会が行われた。盛り上がりやすく冷めやすい日本全国のサッカー熱とは別に、市民工学学生のサッカー熱はこの週末に最高潮となった。梅雨の最中で、降水確率が 40-50%と変動しない週間天気予報と睨めっこをしながら開催を心配していたが、大会当日の朝には久々に青空が見え、試合日和となった。

先月の女子会に引き続き、このフットサル大会も学生主体のレクリエーションである。試合はエントリーをした 10 チームの総当り戦となった。チームは基本的に研究室、複数研究室混合で 4 月に配属された 4 年生と院生で構成されている。フットサルは 1 チーム 5 名のミニサッカーゲームである。各チームとも控え選手が大勢待機しており、日頃の運動不足のためか 7 分間のゲームに学生がバテ始めてくると選手交替が続出してくる。しかし、いずれのチームも 7 分×9 試合の長丁場に棄権することなく戦い続けた。女子学生の黄色い声援もゲームを盛り上げてくれた。

優勝は「新・都市安連合」（田中・吉田研究室）チーム、2 位は「CROQUIS」（建築学科からの選抜チーム）、3 位は「M.L.UNITED」（道奥・宮本研究室）であった。上位 3 チームはビール 1 箱、カップラーメン 1 箱、温泉の回数券のいずれかを獲得した。日曜日の午後にも関わらず、総勢 100 名近くが HAT 神戸の会場に集まり、仲間とともにゲームに汗を流す、市民工学科の結束力をここに見たようである。M2 の幹事の皆さん、大会運営おつかれさまでした。





## 私の学生時代

### 大学院試の思い出（わりかし苦め♪）

応用地質(株) C96 野並 賢

みなさん、今までで一番緊張したのはいつでしょうか。私は、15年前の夏の日です。

気ままに学生生活を謳歌していた私も、気がつけば進路を決めなければいけない時期になっていました。世の中の荒波に揉まれるのを先送りしたかった私は、世間体よく学生でいられる、という理由で大学院に進学することにしました。4年目に4年生に進級できると思っていなかった両親は、「俺もっと勉強したいねん」という見え見えの嘘に対して、予定より1年長く学生をさせてやろう、とのつもりで進学を認めてくれたのです。

次々に就職を決めていく同級生を尻目に、夏休み前までは気楽な4年生を過ごしていたのですが、セミも鳴き出しよいよ受験勉強を開始しなければいけない、という時期になって思いがけぬ噂が耳に入ってきました。「今年は、大学院生を定員通りにしか採らない予定らしいで。」あわてて受験人数と、自分の成績と、定員を比べました。・・・あれ、と思いい度も指を折ったのですが、それほど時間が経たないうちに疑いようのない事実が確認されたのです。「俺の成績の順番、定員よりも下やん！」

それからは、なんで勉強せんと麻雀ばかりしてもうたんやろ、真面目に授業聞いとけばよかった、という後悔の念に押されながら、きれいなままの教科書を開く日々が続きました。結構、切羽詰まった感があったと思います。〇〇君はあんまり勉強してへんらしいで、と言う噂にニヤついたり、何とか先生を飲み会に誘って気持ちよくなってもらい、試験問題を教えてもらおうなんて試みを企ててましたから。ほんと、いい加減な気持ちで大学院に行くなんて言わなければよかった、夏休みにこんな日焼けせえへんかったの初めてやで、と後悔したものです。

いよいよ受験当日。実力以上の実力を出さないと合格できない、と無謀な思いにがんじがらめの私は、緊張で目の前が真っ白になり、震えて鉛筆がうまく握れません。とにかく問題用紙がうまく見えないのです。後にも先にもそんな思いをしたことはありません。開始10分くらいで落ち着き出して、ようやくカクカクの字で解答用紙を書き始めることが出来ました。普段出来ないことを背伸びしてしようとするとうまくいかないことを、身をもって思い知らされるはめとなったのです。受験の神様はそんな状況を哀れに思ったのか、這々の体で1日半の試験をこなした私を、合格者の名前に連ねてくれたのでした。

4年で卒業するのはもったいない、もっと遊ぼう、との思いで進学したのですが、大学院ではその目論見が外れ、思いがけず研究中心の生活を送ることになりました。これも恩師軽部先生をはじめとする先生方のご指導のおかげと、愉快的な仲間恵まれて、研究室が楽しい場であったためです。21歳で足を突っ込んだ土質の世界が、今も飯の種になっているのですから、進学の決断は間違っていなかったようです。どんな形で進路を決めたとしても、与えられた場面で頑張れば、それなりに得るものがある、ということも教えてくれた大学院生活でした。

ちなみに、合格者数は定員を上回っていました。あの噂は一体、なんやったんや？



卒業発表打ち上げの一コマ 定番はカラオケボックスでした

## 神戸 橋のある風景 Vol.2

「暁木会ニュースにもうちょっと写真を増やして、読みやすくした方がいいんじゃない？」そんな声に応えたいと思って（応えられているかな？）始めた本連載、2回目を迎えていただきました。会員の皆様の中には土木業界の方、そうでない方もいるかと思いますが、学生時代に土木工学を学んだという「基礎」の部分は共通しているはずです。土木構造物のもつ「美しさ」、「力強さ」を感じて頂き、また私たちが学生時代を過ごした神戸の町を思い出して頂ければうれしく思います。

第2回目は、神戸の川、山に架かる橋です。



①住吉川 沈下橋（東灘区）

表六甲の河川は、都会の貴重な親水空間として市民に利用されており、一日を通してウォーキング姿が多く見られます。



②生田川 IC（中央区）

六甲山と生田川を借景に、曲線の桁が美しい阪神高速神戸線のICです。



③新六甲大橋とあじさい（灘区）

神戸市の花、あじさいは6月になると六甲山を彩りますが、赤いソープ橋の組み合わせが印象的です。



④阪急神戸線都賀川橋梁と桜（灘区）

表六甲の主な河川は桜並木が整備されています。通学時の車窓から眺めを楽しんだ経験がおありの方も多いのでは。



⑤ ヴィーナブリッジ（中央区）  
神戸を代表する夜景スポットに架かる橋です。いろいろ思い出をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか！？



⑥ 伊川谷高架橋（西区）  
西神ニュータウンと都心をつなぐ地下鉄と市道の高架橋で、田植えが終わったばかりの水田に映る姿が印象的です。



⑦ 丸山大橋（長田区）  
斜面に張り付く住宅街の風景との組み合わせが神戸らしさを感じさせてくれる、ランドマーク的存在の橋梁です。



⑧ 福田橋（垂水区）  
国道2号に架かる80年以上も現役の橋梁です。貼石で飾られ、石の欄干の四隅の飾柱が時代を感じさせてくれます。



⑨ 唐櫃新橋（北区）  
阪神高速北神戸線のこの橋梁は、斜張橋としては主塔が低く、六甲山の山並みの風景にとけ込んでいます。



⑩ 長桁橋（北区）  
棚田が続く北区の淡河地区に架かる橋です。都会のみでなく、農村部もあるのが神戸の魅力の一つといえると思います。

---

---

## おわりに

最後になりましたが、業務多忙の折、執筆を引き受けてくださった皆様に心からお礼申し上げます。また、会員の皆様から、本ニュースへの新企画、寄稿などを募集しています。特に、同窓会をされた際には、ぜひニュースにその様子をご連絡下さいませ。その他、ご意見等がございましたら、下記連絡先までよろしく申し上げます。

発行者：暁木会  
連絡先：会計幹事 野並 賢 C96  
応用地質株式会社関西支社  
TEL：06-6885-6357 FAX：06-6885-6903  
E-mail：nonami-satoshi@oyonet.oyo.co.jp  
[http：//www.gyoubokukai.jp](http://www.gyoubokukai.jp)